

事業報告書

平成 29 年度



社会福祉法人聖啓会

特別養護老人ホーム菜の花

ショートステイ菜の花

デイサービス菜の花

居宅介護支援事業所菜の花

目次

法人役員	1
特別養護老人ホーム菜の花 事業報告	5
相談業務	7
支援業務	8
機能訓練	10
栄養業務	11
介護業務	13
全体行事	17
ボランティア	17
ショートステイ菜の花 事業報告	20
デイサービス菜の花 事業報告	21
居宅介護支援事業所菜の花 事業報告	24
医務計画（健康サポートセンター報告）	25
ボランティア受入報告	26
消防・防災 事業報告	27
寄付・寄贈 報告	28
平成29年度 苦情対応報告	29
平成29年度 苦情・対応 一覧	30
内部研修報告 一覧	32
外部研修報告 一覧	34
事業報告の附属明細書	39

法人役員

理事

氏名	住所
(理事長)星野 正明	静岡県藤枝市
星野 美奈子	静岡県藤枝市
金原 俊輔	静岡県浜松市
川口 節子	静岡県静岡市
神尾 芳典	静岡県藤枝市
亀甲 良明	静岡県牧之原市

任期 平成 28 年度決算に関する定時評議委員会の終結の時から
平成 30 年度決算に関する定時評議委員会の終結の時まで

監事

氏名	住所
杉山 重人	静岡県菊川市
松村 奈緒子	静岡県藤枝市

任期 平成 28 年度決算に関する定時評議委員会の終結の時から
平成 30 年度決算に関する定時評議委員会の終結の時まで

評議員

氏名	住所
石田 治子	静岡県藤枝市
岩崎 丈夫	静岡県藤枝市
加納 裕子	静岡県島田市
佐藤 芳憲	静岡県静岡市
杉山 芳白	静岡県静岡市
西沢 良孝	静岡県藤枝市
八木 あさよ	静岡県藤枝市

任期 平成 29 年 4 月 1 日から
平成 32 年度決算に関する定時評議委員会の終結の時まで

法人活動報告

第一回理事会 平成 29 年 5 月 25 日

種別	No.	議題
報告事項	第 1 号	理事長専決事項・これまでの経緯
議案	第 1 号	平成 28 年度 監事監査報告・事業報告及び決算報告
議案	第 2 号	社会福祉充実計画について
議案	第 3 号	次期聖啓会理事の推薦について
議案	第 4 号	次期聖啓会監事の推薦案について
議案	第 5 号	評議員会招集
議案	第 6 号	優先入所指針変更
議案	第 7 号	役員報酬及び費用弁償規程

第一回評議員会 平成 29 年 6 月 15 日

種別	No.	議題
報告事項	第 1 号	評議員委嘱・任期について
報告事項	第 2 号	議長及び議事録署名人選出
議案	第 1 号	社会福祉法人聖啓会 理事の選任
議案	第 2 号	社会福祉法人聖啓会 監事の選任
議案	第 3 号	理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準について
議案	第 4 号	計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認
報告事項	第 3 号	社会福祉充実計画

第二回理事会 平成 29 年 6 月 15 日

種別	No.	議題
報告事項	第 2 号	理事長の職務の執行状況・理事委嘱
報告事項	第 3 号	評議員会審議結果報告
議案	第 8 号	理事長互選
議案	第 9 号	定款細則変更
議案	第 10 号	経理規程変更
議案	第 11 号	給与規程変更

第三回理事会 平成 30 年 3 月 8 日

種別	No.	議題
報告事項	第 5 号	法人監査結果報告
報告事項	第 1 号	介護保険事業所実地指導結果報告
議案	第 1 号	法人監査 文書指摘事項の改善
議案	第 2 号	評議員会運営規程第 17 条第 3 項の削除
議案	第 3 号	定款細則別表の変更
議案	第 4 号	借入金繰上返済・弁済保証金負担
議案	第 5 号	補正予算
議案	第 6 号	デイ 総合事業実施に伴う運営規程変更
議案	第 7 号	給与規程変更

特別養護老人ホーム菜の花 事業報告

1 施設運営の方針

<ご利用者対応指針>に関する報告

- ① 身体拘束…………… 委員会の場で身体拘束要因対象者に対し対応方法を検討した。スピーチロックに重点をおき、職員全員にアンケートを取り意識改革を行なった。
- ② 生活環境…………… 職員が各フロアで特色を出し環境を整えた。又、葉植物を配置。又、手造りのテーブルや高さを調整した。南側のベランダにお花のプランターを配置し各居室からも眺められるようにした。ベランダの花を植え替えた。常に綺麗な環境を提供できるようにした。
- ③ 排泄援助の個別化… 排泄委員会で討議し、下剤ゼロを目指し食物繊維（サンファイバー）を使用した。水分摂取の援助やオムツ外しを視野に入れ、支援した。
- ④ 食形態…………… 管理栄養士が主体となり担当者会議と摂食委員会の場で検討している。給食会議では委託業者と打ち合わせを実施。
- ⑤ 入浴時間…………… 殆どの方が日中でも満足されて居られる様子。
- ⑥ 認知症…………… フリーダムを活用し搭載のメニューを駆使し進行予防のレクを実施した。研修会開催。健康倶楽部の活躍と機能訓練士の屋外散歩が効を奏した。
- ⑦ 健康管理…………… 嘱託医は毎週2回の回診と看護師による健康サポート部が毎日の健康管理・健康診断・緊急時に対応。今期も感染症（インフルエンザ）は0名であった。クインタイルズ社の協力を得て、骨密度を測定し希望者にプラリア注射を実施した。

<職員処遇指針>に関する報告

- ① 人財…………… 14名が退職。現在85名（パート含）で運営。
- ② ワークライフ…………… 職員一人一人のライフスタイルの中で勤務。シフトは83に分けている。
- ③ 福利厚生…………… 忘年会、秋祭り、など各行事の際等、職員間の交流を図っている。志太会に加入し他施設との交流を図っている。
- ④ 外部、内部研修…………… 別紙研修一覧表参照。

<地域や関係機関との連携>に関する報告

- ① 協力病院との連携…………… 緊急搬送は別紙参照。相談員、ケアマネとの相互の連携を図った。
- ② 地域の行事の参加……………

4月	河川の清掃(町内行事)
10月	白髭神社祭り
11月	烏帽子山祭り
1月	内瀬戸町内会 組長会
- ③ 地域町内会に加入…………… 4月より加入
- ④ 地域防災拠点…………… 藤枝市特別養護老人ホームの施設長会で福祉避難所協定を結ぶ。

- ⑤ 地域交流室…………… 解放している。入居者の方と地域、ご家族との食事会など。地域の方の見学の際にお茶のおもてなしをしている。作品展の開催時近隣の方々、ご家族に解放。
- ⑥ ボランティア…………… 受け入れ状況は別紙参照
- ⑦ 関連施設の勉強会 …… 藤枝市立総合病院主催の勉強会に参加
- ⑧ 施設主催…………… イベントを地域に発信。
- ⑨ 「菜の花だより」 …… 毎月発行。ご家族、関連施設に発送。
- ⑩ ホームページ…………… 毎月更新。
- ⑪ 地域の学校…………… 青島小学校 6 年生体験学習計 1 日 3 3 名受入
藤枝市立藤枝中学校 2 年生の福祉体験 5 8 名を受入
県立中央特別支援学校実 1 名習受入
静岡大学教育学部介護体験実習 1 名 5 日間受入
県警察学校介護研修 1 2 名受入
駿遠学園実習 1 名 5 日間受入
- ⑫ 自然との触れ合い …… 外出レクは別紙参照
- ⑬ 地域の名産…………… 名物を取り入れた献立は栄養事業報告参照。
- ⑭ 地域のレストラン …… レストランやお寿司屋など外食レクは今年は実施できなかった。美々倶楽部で喫茶店にジェラードを食べに行った。

2 平成 29 年度の評価及び来期の課題

開設 6 年目で計画通りの内容で運営できた。

「企業は人なり」と言われる。定着率を上げる為賃金の見直しを行ないいった。7 年目となりユニットのリーダーが育ってきた。職員が安心して働けるように介護士長制度を作り相談できる体制とした。その体制を活用し、職員のコミュニケーションが取れる施設の職風土の生かして遣り甲斐のある職場にしていきたい。

< 7 年目に向けて >

- ① 介護のスキルUPを図る。
 - ・ユニットリーダーの育成→引き続き研修を行ないマネージメントスキルアップを図る。目標管理の徹底。自己評価により達成感を感じる。
 - ・内部研修を充実させる→毎日 1 2 時 3 0 分～1 3 時まで。講師は職員
 - ・ユニットケアの実践→企画運営をユニット単位で任せる。(ユニット費の設定)
 - ・受け持ち制を実践→介護職員と入居者との信頼関係を深める。
 - ・口腔ケアの充実→口腔ケア研修計画。歯科衛生士の雇用。
- ② 職員の満足度を上げる。
 - ・福利厚生を充実→職員間のコミュニケーションを良好にする
 - ・遣り甲斐感→処遇改善。目標管理(自分の目指す事を明確にする)
 - ・心の健康づくり→介護士長を中心に(面接、相談窓口を作る)
 - ・介護全体会議の場で介護感の統一を図る
- ③ 世代間交流を図る→昨年と同様に青島小学校との交流を継続する。
- ④ 研修生の受け入れ→社会福祉士、警察学校、介護福祉士、各種学校
- ⑤ 入居者の生きがい、楽しみが充実できるプランを立てる。教養娯楽費の有効活用を図る
 - ・倶楽部活動の充実を図る。
園芸倶楽部の活性化を図る(施設の前の畑の一部を借り野菜作りを継続する)
 - ・外出の機会を多く持つ。
 - ・ボランティアの協力を得る。
 - ・昨年同様「美味しい」、「楽しい」、「嬉しい」、時を企画運営。

相談業務

高齢者が、介護が必要となり、日常生活が困難になった場合など、優先入所指針に基づいて、入所の必要性の高い受入報告

在宅での介護をしておられるご家族が、様々な理由により、介護が困難になったり、一人暮らしの方から優先入所検討委員会を設けて随時入所手続をして参りました。

支援報告

入所されたご利用者さまが長期に生活できる施設として安心快適にお過ごしいただけるよう、できるだけ支援をしました。また、必要に応じて受診手続きの支援をしました。

また、ご利用者様やご家族からの相談を受け、支援したり、ご利用者の状況等についてご家族に密に報告・連携を取らせていただきました。

内相談容報告

1. 常にご利用者様の心身の状況・その置かれている環境等の明確な把握に努め、ご利用者様またはご家族様に対し、相談に適切に応じると共に必要な助言そのほかの援助に努めました。
2. ご家族様との「連携」を充実させ、必要な助言・援助を行うことに努めました。
3. 優先入所制度の円滑な運用に努力しました。

延利用者数・平均介護度・稼働率

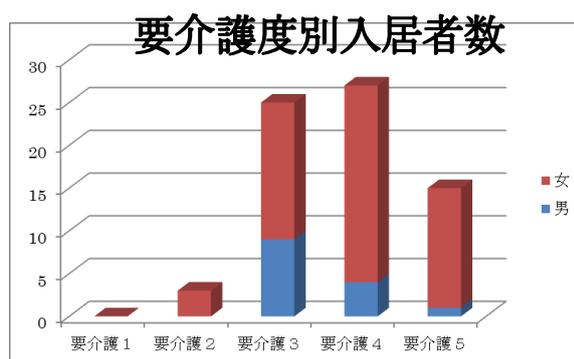
摘要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
うち男性	510	517	432	434	411	390	396	387	400	403	364	416	5,060
うち女性	1,551	1,608	1,649	1,713	1,736	1,672	1,745	1,701	1,717	1,740	1,565	1,745	20,142
延利用数	2,061	2,125	2,081	2,147	2,147	2,062	2,141	2,088	2,117	2,143	1,929	2,161	25,202

うち男性	3.47	3.41	3.35	3.29	3.40	3.39	3.37	3.47	3.42	3.39	3.39	3.43	3.39
うち女性	3.59	3.61	3.61	3.63	3.67	3.69	3.69	3.75	3.77	3.78	3.77	3.85	3.70
平均介護度	3.56	3.56	3.55	3.56	3.61	3.63	3.63	3.70	3.71	3.71	3.70	3.77	3.64

稼働率(%)	98.1	97.9	99.1	98.9	98.9	98.2	98.7	99.4	97.6	98.8	98.4	99.6	98.6
--------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

要介護度別入居者数

	女	男	介護度
要介護1	0	0	0
要介護2	3	0	3
要介護3	16	9	25
要介護4	23	4	27
要介護5	14	1	15
総計	56	14	70

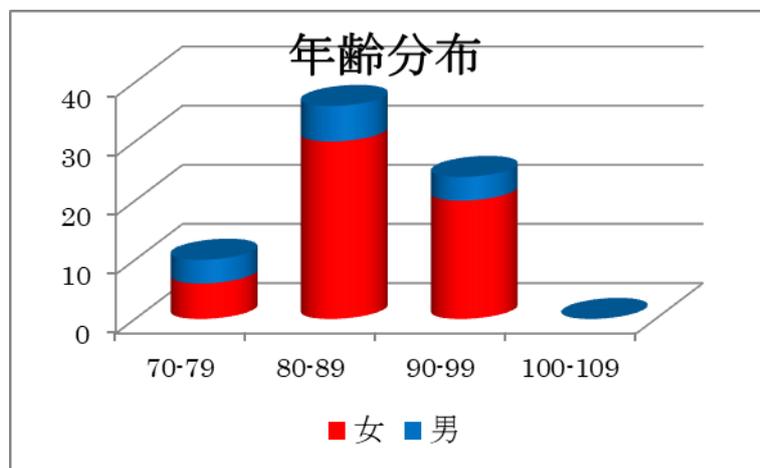


保険者別入居者数

保険者名称	女	男	総計
藤枝市	50	13	63
焼津市	4	1	5
島田市	1		1
吉田町	1		1
総計	56	14	70

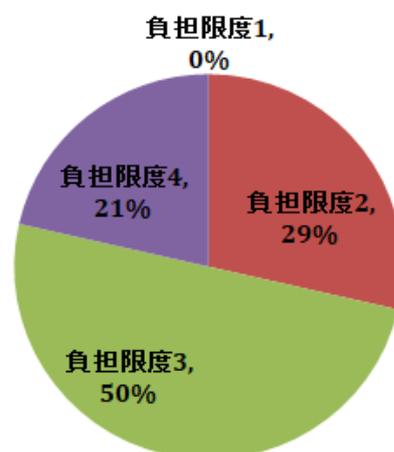
年齢分布

年齢	女	男	総計
70-79	6	4	10
80-89	30	6	36
90-99	20	4	24
100-109	0	0	0
	56	14	70



負担段階	人数	割合
負担限度 1	0	0%
負担限度 2	20	29%
負担限度 3	35	50%
負担限度 4	15	21%

利用者負担軽減状況



利用者負担軽減状況

社会福祉法人等利用者負担軽減

負担段階	人数	割合
社福減免	4	5.7%

優先入所検討委員会 開催状況

開催回	開催日	決定人数
第 63 回	H29. 4. 13	3
第 64 回	H29. 4. 27	2
第 65 回	H29. 6. 6	3
第 66 回	H29. 8. 17	1
第 67 回	H29. 9. 21	2
第 68 回	H29. 11. 30	10
第 69 回	H30. 3. 20	7

新規入所者数 15 名

退所者・内訳

総退所者数	看取り	転院	自宅	病院	病死
14	10	1	0	2	1

支援業務

支援計画（ケアプラン）の作成を行いました。

概ね6ヶ月ごと、状態に変化がある場合は、できるだけ担当者会議を開催し、支援計画の見直しをしました。その人らしさを重視した個別性のある計画を心掛けました。

また、介護保険の認定がスムーズにおこなわれるよう、認定調査の立ち合いをしました。

担当者会議開催回数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	11	15	10	8	7	4	9	8	5	2	2	1	82

介護保険認定調査立ち合い回数 44回

機能訓練

利用者様・ご家族様の意向を尊重しながら、身体機能の維持・向上を目指し、下記の事業を実施した。

- ・個別機能訓練計画書の作成
- ・個別訓練（歩行訓練、立ち上がり訓練、立位保持訓練、座位保持訓練、移乗訓練、マッサージ、関節可動域訓練、車椅子散歩等）
- ・集団訓練（ラジオ体操・TV体操・リハビリ体操）
- ・担当者会議への出席
- ・委員会、各行事への出席

月別訓練実施延人数

4月（個別訓練 141名、集団訓練 138名）	5月（個別訓練 171名、集団訓練 146名）
6月（個別訓練 144名、集団訓練 147名）	7月（個別訓練 136名、集団訓練 113名）
8月（個別訓練 150名、集団訓練 189名）	9月（個別訓練 122名、集団訓練 133名）
10月（個別訓練 125名、集団訓練 124名）	11月（個別訓練 123名、集団訓練 123名）
12月（個別訓練 139名、集団訓練 135名）	1月（個別訓練 115名、集団訓練 149名）
2月（個別訓練 136名、集団訓練 141名）	3月（個別訓練 131名、集団訓練 185名）

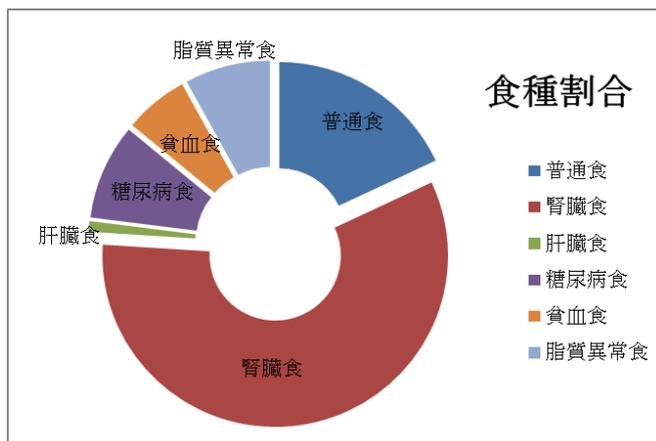
- ・今後は、入所者様に更に喜んでいただけるよう、健康倶楽部をはじめ、他の催し物や倶楽部活動、各ユニットの行事などにもできるだけ参加していきたいと考えています。

栄養業務

栄養ケアマネジメントを実施しました。施設ケアプランに基づき、栄養計画書を作成し、定期的に評価、状態の変化に合わせて見直しを行いました。また毎食、心が伝わるようなおいしいお食事を提供できるように給食委託業者の指導を行いました。それぞれの食形態について、技術向上の努力も日々行っております。引き続き、おいしく楽しく気持ちよく、食事ができる工夫をしていきます。

1、食種 (H30.3.31 現在)

食種	食数 (人)	割合 (%)
普通食	12	17
腎臓食	48	69
肝臓食	0	0
糖尿病食	5	7
胃潰瘍食	0	0
貧血食	2	3
脂質異常食	3	4
痛風食	0	0
脾臓食	0	0
合計	70	100



2、食形態 (H30.3.31 現在)

	形態	食数 (人)	割合 (%)
主食	米飯	22	32
	軟飯	24	34
	全粥	19	27
	ソフト粥	5	7
	パン	0	0
	合計	70	100

	形態	食数 (人)	割合 (%)
副食	常菜	17	24
	一口大	18	26
	やわらか	31	44
	ソフト	4	6
	合計	70	100

※その他、個別対応食、ハーフ食、ターミナル食、禁止食、夜食など入居者様個人の状況に合わせて提供

3、栄養給与目標量 (H29 年度)

	エネルギー	たんぱく質	脂質エネルギー比	カルシウム	鉄	ビタミン A	ビタミン B1	ビタミン B2	ビタミン C	食塩相当量	食物繊維総量
	kg	g	%	mg	mg	μg	mg	mg	mg	g	g
男	1600	65	20~25	700	7	800	1.2	1.3	100	8.0	19
女	1400	60	20~25	650	6	650	0.9	1.1	100	7.0	17

栄養給与量 (H29 年)

エネルギー	たんぱく質	脂質エネルギー比	カルシウム	鉄	ビタミン A	ビタミン B1	ビタミン B2	ビタミン C	食塩相当量	食物繊維総量
kg	g	%	mg	mg	μg	mg	mg	mg	g	g

1539	59.4	22.5	675	7.9	877	1.41	1.34	99	8.2	15.3
------	------	------	-----	-----	-----	------	------	----	-----	------

4、行事食

4月	4日	全ユニット	開設記念日
5月	2日	全ユニット	おやつ かしわ餅提供
	5日	全ユニット	こどもの日献立
	11日	全ユニット	かつおのたたきを提供
6月	9日	デイサービス	デイサービス開設記念日お祝い膳
7月	7日	全ユニット	七夕献立
	25日	全ユニット	土用の丑の日献立
	3. 10. 18. 25. 30日	ショート、デイサービス	流しそうめん
8月	7. 17. 23日	特養	流しそうめん
9月	3日	全ユニット	敬老会お祝い膳
	11日	デイサービス	デイサービス敬老会
	22日	全ユニット	おやつ おはぎ提供
	22日	全ユニット	秋の味覚献立
	28日	全ユニット	秋の味覚献立
10月	13日	全ユニット	秋の味覚献立
	19日	全ユニット	秋の味覚献立
	27日	全ユニット	にぎり寿司提供
11月	8日	全ユニット	秋の味覚献立
	13日	全ユニット	秋の味覚献立
12月	4. 21日	全ユニット	にぎり寿司実演、提供
	24日	全ユニット	クリスマス献立（洋食）
	25日	全ユニット	クリスマス献立（和風）
	31日	全ユニット	年越しそば
1月	1～2日	全ユニット	おせち料理
	7日	全ユニット	七草粥
2月	2日	全ユニット	恵方巻き
	14日	全ユニット	おやつ バレンタインのお菓子
3月	2日	全ユニット	ひなまつり献立
	6日	全ユニット	春のお楽しみ献立
	23日	全ユニット	おやつ ぼたもち提供

季節に合った献立にし、食欲が増すような工夫をしました。また料理の温度にも注意し、よりおいしく食べていただけるように心がけました。入居者様お一人お一人に合わせたお食事内容になるように努力しました。

行事食の他に、各ユニットごとに企画された調理レクリエーションの材料の準備、参加をしました。



4月4日 開設記念日



4月13日 春の献立



5月11日 かつおのたたき



6月9日 デイ開設記念日



7月7日 七夕献立



7月25日 土用の丑の日



9月3日 敬老会お祝い膳



9月11日デイ敬老会お祝い膳



9月28日 秋の味覚献立



12月21日 にぎり寿司



1月1日 おせち料理



1月2日 お正月ちらし寿司



2月2日 恵方巻き



3月2日お雛祭りのちらし寿司



3月6日春の味覚献立 豆ご飯

12月21日 にぎり寿司

介護業務

菜の花開設6年目を迎えました。介護業界全般を覆う人材不足問題が菜の花にも大きく立ちふさがった年でもありました。『職員不足』という現実と直面したからこそ目の前で生活されている高齢者に何が出来るのだろうかという現実と介護職一人一人が悩み、菜の花の介護とはどのようなものか？ 菜の花の介護姿勢や課題が浮き彫りとなりました。特別養護老人ホーム菜の花を「生活の場」として選ばれた入居者様、ご家族様が最期の時まで安心した暮らしを送ることができるサービスと介護の方針を各委員会が改めて考えました。菜の花の介護基盤となる委員会活動から抽出された課題を検討することで「学び改善する組織」として反映できるよう努力していきます。

1、教育委員会

平成29年度5名の入職者対象とした職員研修を4月から5月にかけて実施しました。その反面退職に至った職員も複数おり、研修で学び得た知識を他の職員へ伝える伝達研修が開催できない、内部研修を行っても介護職員の参加が困難などの理由から思うように研修計画が組めない現状が続きました。よいケアを継続して提供すること⇔職員が定着する⇔職員が学び育つ教育環境を整える。この3点はいずれもつながっており、本来であれば施設が開設した年数とともに職員の学びが深まり新人が中堅、中堅がベテランに成長していく教育体制が望ましいのですが、実行に至らないもどかしさに悩んだ1年でもありました。介護職とは「人に寄り添う」仕事であり、その中で専門職としてのあるべき姿、知識、技術を掴み、仕事の質を高める、そのための「段階を踏んだ教育体制の構築」に来年度以降取り組んでいきたいと考えています。

2、摂食委員会

平成27年度、平成28年度を通じ摂食委員会では「おいしい一匙」をテーマに活動を行ってきました。その集大成として平成29年8月に開催された静岡県福祉研究大会で取り組みを発表致しました。菜の花では『食事を単なる栄養補給ではなく生活の中で最も楽しいこと』とした基本姿勢が根底にあります。1人1人の入居者様の特徴にあった支援、その方にとっての「おいしいひとさじ」とはどのようなものか？ 食事といった場面を通じ職員目線の介護ではなく入居者様の目線に合った介護とはなにか？ 委員会の中で話し合いを重ねていきました。職員の手がたりない＝職員目線の介護に陥ると食事は味気なくつまらない、ただの栄養補給の時間になってしまいます。生活の中で最も楽しい時間＝食事の時間になる為には食事時間だけではなくその前後の時間を大切にしていける事、「今日の昼ごはんは〇〇ですよ。楽しみですね」「美味しかった。夕食はなんだろう」と食事と言うキーワードを通じ職員と入居者様に笑顔と会話がはぐくまれる場、かつ入居者様の安全が守られるための専門職としての知識・技術の習得をめざし今後も活動していきます。

3、入浴・排泄委員会

菜の花開設当初からのテーマである『可能な限りトイレでの排泄』と『のんびりゆったり個浴槽』に取り組んできました。平成29年度は『のんびりゆったり個浴槽』にフォーカスをあて、7ヶ所を勧めて参りました。入浴介護は単に体の清潔を守るだけではなく、日本人特に高齢の世代においては湯船につかる事が1日の疲れを癒す大切な習慣になっています。その反面入浴介助には危険も伴っています。入浴・排泄・食事の順で高齢者の日常生活は変わっていくと言われる一因として入浴＝介助者にとっても危険な場所としてとらえられている事は否めません。入居者様が心から「いいお湯だった」と感じる事が出来る、また職員が介助するうえで安全安心な入浴を提供できるためにはどうすれば良いか検討していきました。その結果まずは介助するうえでの環境整備を行うとし、キャスター付きのシャワーキャリーを1台購入いたしました。まずは4階でシャワーキャリーを使用、アビット浴槽・個浴槽と組み合わせることで今まで臥床浴に入られていた方も普通の浴槽でゆったりとしたお風呂の時

間を楽しめるようになりました。来年度以降もシャワーキャリーをはじめ適切な福祉用具の活用を試みながらより良い入浴排泄ケアに取り組んでいきます。

4、感染症対策委員会

平成29年度のインフルエンザ発症者は下記のとおりです。

平成29年4月入居者様1名インフルエンザA型感染。平成30年3月職員3名インフルエンザB型発症。4月入居者様のインフルエンザ発症を分析。発症ユニットは食事介助を必要とする入居者様が多く職員の出入りが激しい、4月にはいり外気温もあたたかくなりマスク着用者が減っていた、高齢者は潜伏期間も長くインフルエンザに感染しても直ぐに明らかな症状がでず事前の事象との関連づけができなかった事が要因として挙げられました。感染症に罹患されるとその後の生活にも影響が出て来る事もあり標準予防策と感染経路別予防策の検討が必要と感じました。

各フロアで褥創リスクが高い入居者様の情報共有に努めました。エアマット6台の効率的な使用方法、褥瘡に対するアプローチを明確にし、看護・介護間でケアの統一を図りました。

5月にはグローブ使用についての研修、2月には加湿器の研修を実施しました。いずれも身近な備品ですが使用方法が適正でなければ悪効果となる為、来年度以降も新しい知識習得に向けた研修と並び基本を踏まえた研修を計画していきたいです。

5、身体拘束委員会

身体拘束に対する施設の指針を周知、身体拘束ゼロを実践しています。身体拘束廃止推進委員研修に参加、施設内でスピーチロックに向けての取り組みを行いました。

話し合いの中でユニットに職員が1名だった場合、危険を防ぐためのいわゆる「動かないで！」などのとっさに出てしまうスピーチロック」もあるため現状を鑑みると完全になくすことは難しい。だがゼロに近づけるためにできる取り組みもあるのではないかと意見が出ました。その意見をもとにスピーチロックを減らすためにはまず自身の意識を変えていくことが必要なのではないかと結論に至り、意識を変えるための目標として①他の職員の良い声掛けや対応を意識してみる、自身も他の職員から見られているという意識を培う②その日1日の自分の業務を振り返る時間を作る2点を掲げました。具体的な活動として①自分自身がどのような場面でイライラしてしまうのか？をアンケートを通じきちんと認識する②その日1日の仕事ぶりを振り返り自信を律するために『振り返り貯金箱』の設置③機会があるごとに他の職員の良い声掛け対応に目と耳を傾け、『良かった声掛けの投票』を2週間実施しました。自分自身のコミュニケーション特性は意識化されにくいためこのような取り組みを行うことで介護の専門職として最も必要とされる自己覚知に繋げ、自身がどのような場面で苛立ち声を荒げてしまうのかを心にとどめておくだけで、「あつまズイ。深呼吸」と言葉を発する前にブレーキをかけ、不用意なスピーチロックが減ってきたと実施後の意見も挙がっていました。『継続は力なり』来年度以降も目に見えないスピーチロックという拘束に向け話し合いを重ねていきたいです。

6、事故対策委員会

事故対策委員会では12月に介護職員を対象としたアンケートを実施しました。リスクが高いと職員が感じている時間帯と実際の発生件数に齟齬が生じている事がわかりました。

(1時、10時、14時の時間帯は実際の事故発生件数が多く、職員のリスク認識が薄い時間帯)逆に6時、7時、18時、19時は職員のリスク認識、事故件数双方が高い時間帯でもありました。前述の時間帯はオムツ交換、口腔ケア、排泄介助などの業務がひと段落しており、また入居者様もゆっくりされる時間帯である事から注意喚起が薄くなっている事が意識と事故発生件数のギャップを生んでいる一因として考えられます。後述の時間帯は、ユニットに勤務者が1名、起床、就寝介助、食事介助、口腔ケア、排泄介助の複数業務を1名が受け持つ事で職員のリスク認識がおのずと高まっていると推測されます。また「事故を防ぐために意識している事」「事故を防ぐアイデア」「その他」について記述式で回答して頂きました。アンケートを集計するとケアに基づく権利と倫理は常にジレンマを抱えており最たるものが「行動抑制」として挙げられています。たとえば歩行にふらつきがある高

高齢者が「立って歩きたい」という意思を行動、表情で示しているが「転倒・骨折のリスクが高い」ことが予測される場合、『立って歩きたいという自立的な本人の意思決定を尊重する』気持ちと『転倒・骨折をさせてはいけない』という事故防止との間にジレンマが生じ職員は常に頭を悩ませています。職員が倫理的ジレンマに陥ることなく支援するためには、介護において本人・家族と信頼関係を構築、『状況に応じ予測されるリスクについて説明、記録』を組織として取り組み日頃から行なうことが必要と感じました。アンケート結果を基に来年度は事故対策防止指針の見直し、研修（高齢者疑似体験・KYT危険予知訓練）に取り組んでいきたいと思っております

7、看取り委員会

昨年度退居された方は18名、逝去による退居は16名でした。16名のうち、菜の花開設初期からの入居者様4名、菜の花に入居されてから1年未満で逝去されている方が7名でした。開設初期に元気で入居されていた方が徐々に衰弱期に差し掛かっている、特養の入所要件が介護度3以上となり、入居から看取りに至るまでの期間が短くなってきている、入居後のリロケーションダメージが大きく作用していることが考えられます。看取りケアとは入居されたときから始まっており、入居者・ご家族・職員が日々の生活を通じ、信頼関係を積み重ねた結果迎えるケアでもあります。ただし上記のような理由から今後は十分な信頼関係を結ぶことができない中での看取りも多くなるように感じています。限られた時間のなか、限られた職員一人一人が入居者様のことを思い悩むことが「寄り添う介護」の本質であり、思い悩むためには常日頃からの気づきと観察が重要であると看取り委員会では考えています。介護職が得た気づきと観察を他職種にどのようにつないでいけるか？多職種が同じ方向を向き、入居者様に携わっているか？も課題として残されています。今後委員会では、介護職員の気づきと観察、多職種連携、看取りケア指針の見直しに重点を置き活動してまいります。

7、クラブ活動など

書道クラブ：第2、第4水曜日開催。若い頃に慣れ親しんだ筆を手にとられ、季節ごとの文字をしたためています。先生からいただく花丸や時に手直しも次回への励みに繋がっており参加されたご入居者様にも熱が入っています。

華道クラブ：第3水曜日開催。季節の花々に触れ、口々に「きれいね」と喜んで下さいます。麻痺がある方も参加しやすく、完成した作品をホールや居室に飾る事で、他のご入居者様や御家族様との楽しい会話に花を添えています。

手芸クラブ：第3金曜日開催。ティッシュボックスなどを作成しました。作品を作る過程だけではなく、完成した作品を使う事で新たな喜びにつなげることが出来ました。

絵手紙クラブ：第4金曜日開催。季節の風物詩を絵と言葉で表しメッセージを記しました。絵を描くに留まらず時には折り紙やちぎり絵を用いて素敵な作品が出来上がりました。

おしゃれクラブ：第3月曜日開催。出張理美容コゼットさんの協力をいただき女性の方々にマニキュアやお化粧を楽しんで頂きました。花を飾ったり、アロマをたいたりなど会場の雰囲気作りから始まりました。きれいになられたお母様をご覧になられご家族様からも喜びの声を多数いただきました。

舌鼓クラブ：5月新茶会、10月さんまBBQ、1月から3月お茶会開催。昨年度より開催しましたが季節を楽しめる活動となりました。美味しい食べ物をきっかけに和やかな交流が生まれました。

音楽クラブ：お誕生日のお祝いとしてユニットで懐メロや童謡を楽しみました。歌を唄う事で昔を思い出し気持ちのいいひと時を過ごせました。

平成 29 年度実施年間行事

全体行事

月日	内容	
7月1日～7月7日	七夕	各フロア
8月3日～8月18日	流しそうめん	各ユニット
9月3日	菜の花敬老会 お食事会	
9月17日	菜の花祭り (バザー・屋台・ゲーム)	
4月27日～5月10日	作品展	

ボランティア

年月日	行事
4月12日	Fu～風
4月17日	ティラミス
4月26日	市川教室 大正琴
5月1～31日	オカリナ、茶道、折り紙、読み聞かせ
7月05日	とっつこうくっつこう
7月12日	よっしー
7月19日	乙女椿
8月21日	Fu～風
8月23日	グルーポカーニャ
8月25日	ティラミス
9月06日	とっつこうくっつこう
11月01日	とっつこうくっつこう
11月08日	楽歌声
11月08日	よっしー
12月09日	クワトロマージョ
12月15日	FU～風
12月20日	グルーポカーニャ
1月10日	とっつこうくっつこう
3月07日	とっつこうくっつこう
3月15日	市川教室
3月26日	千郭会







ショートステイ菜の花 事業報告

定員：20名 特別養護老人ホーム菜の花併設

ショートステイ菜の花は7年目に突入し、毎月5～6名程の新規利用者と契約をしました。平成29年度の年間稼働率は、前年度を4.6ポイント下回り76.9%となり、80%の目標を達成することができませんでした。

カラオケ、おやつ作り、流しそうめん等のレクリエーション、バスクリン工場見学でのバスクリン作りや明治製菓の工場見学等のドライブや外出にも本格的に力を入れショートステイのユニット内も日々賑わいを見せております。

平成29年11月から平成30年3月まで、定期利用者の特別養護老人ホーム等の施設入所が相次ぎ、前年度の年間稼働率を下回りました。また新規の方で1回のみのお利用の方を、どのようにリピーターになって頂けるか、今後の課題としてあげられます。

感染症に関しては疑いのある利用者様の早期対応等により集団発生に至る事はありませんでした。

平成30年度は年間稼働率80%以上を目標に掲げ営業活動を図っていきます。そして利用者一人一人が「ショートステイを利用してよかった。」「また来たい。」と思う明るいユニット作りを今後も行なっていきます。

利用状況

実人員	延人数	1日あたり人員	1人あたり日数	稼働率
681人	5613人	15.38人	8.24人	76.9%

利用者数 実人員

月	男	女	計
4	14	47	61
5	16	49	65
6	11	45	56
7	15	43	58
8	14	52	66
9	12	50	62
10	13	50	63
11	9	45	54
12	9	40	49
1	8	43	51
2	9	41	50
3	8	39	46
計	138	543	681

利用者延べ人数

月	男	女	計
4	128	368	496
5	149	415	564
6	110	387	497
7	135	356	491
8	94	418	512
9	115	381	496
10	109	395	504
11	97	360	457
12	88	365	453
1	83	340	423
2	73	280	353
3	68	299	367
計	1249	4364	5613



デイサービス菜の花 事業報告

定員 : (月)～(金)25名(土)20名

特別養護老人ホーム菜の花併設

営業日 : 月曜日から土曜日(年末年始を除く)

営業時間 : 午前9時30分～午後4時45分までの7時間15分

デイサービス菜の花では平成27年8月より個別機能訓練を開始いたしました。筋力維持向上を目指す利用者様に変化がもたらされております。毎日の集団体操も3種類以上行ない、機能訓練に力を入れました。また、毎月さまざまな行事を実施し利用者様の心身の活性化を図りました。調理・おやつレクは男性利用者様にも新しい刺激となり人気のレクとなっています。その他にも春夏秋冬の運動会、外出行事、季節行事等レク活動の充実や、小学生との世代間交流、大学生ボランティア受け入れ等で社会性や生きがいを持てるような取組みを行ないました。

既存利用者様の増回や市内居宅支援事業所からのご紹介がありましたが、入所者等があり、稼働率が昨年度(75.6%)に比べ今年度は(67.5%)と低迷しました。

利用人数

	利用人数 (人)	延人数 (人)	営業日数 (日)	平均利用 (人)	利用率 (%)
4月	44	408	25	16.3	68.0
5月	46	455	27	16.9	78.5
6月	46	457	26	17.6	72.5
7月	46	449	26	17.1	71.0
8月	43	425	27	15.7	64.9
9月	45	432	26	16.6	69.1
10月	45	438	26	16.9	69.5
11月	44	410	26	15.8	65.1
12月	42	404	25	16.2	66.8
1月	44	394	25	15.8	65.1
2月	39	365	24	15.2	62.9
3月	44	424	27	15.7	65.2
計	528	5056	310	16.3	67.5



畑で野菜の収穫



調理レク・おやつレク



流しそうめん



敬老会



外出レク



季節行事



ハロウィンパーティ



音楽生演奏レク



利用者出演クリスマス劇

居宅介護支援事業所菜の花 事業報告

事業の概要

要介護者が自宅での生活を続けられるように居宅サービス計画の作成等を行います。
利用者数の増加に伴い平成 28 年 1 月より兼務で 1 名、職員が入職しました。
平成 28 年 1 月より 1.5 人体制で運営しております。

居宅サービス計画作成数の推移（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

	非該当	要支援		要介護					計(予防は×0.5件)
		1	2	1	2	3	4	5	
4月		5	9	12	13	5	2	0	39
5月		5	9	11	14	5	2	0	39
6月		5	9	11	15	6	4	0	43
7月		5	9	12	15	3	5	0	42
8月		5	9	12	14	4	5	0	42
9月		6	10	12	13	3	5	0	41
10月	1	7	9	12	16	3	5	0	44.5
11月	1	7	9	12	17	5	4	0	46.5
12月	1	7	9	12	17	5	3	0	45.5
1月	1	8	8	12	16	5	3	0	44.5
2月	1	8	7	13	17	3	3	0	44
3月	1	7	7	12	18	3	4	0	44.5

医務計画（健康サポートセンター報告）

< 実施可能な医療行為 >

① 褥瘡処置	01名
② 浣腸摘便	02名
③ 人工肛門	03名
④ インスリン注射	00名
⑤ 簡単な創処置	02名
⑥ 在宅酸素療法	01名
⑦ 胃瘻経管	00名
⑧ 薬剤管理	70名
⑨ バルーン管理	01名

< その他の医療行為 >

1 感染症対策	
① インフルエンザ	00名
② 疥癬	00名
③ 「MRSA」	00名
④ 結核	00名

< お亡くなりになった方 >

1 「施設」で亡くなった方	14名
① 「看取り」で亡くなった方	10名
② その他の方	01名
2 「病院」で亡くなった方	02名
① 藤枝市立総合病院	01名
② 甲賀病院	01名

< 医務会議（健康サポートセンター会議） >

毎月1回

< 急変時の対応 >

1 救急車にて救急搬送先

- ① 藤枝市立総合病院・・・11名
- ② 平成記念病院・・・・・・02名

< 健康診断 >

1 入所者定期健康診査

- ① 実施期間 平成29年10月12日～12月26日
- ② 実施機関 ほしのクリニック
- ③ 実施人数 70名
- ④ 実施内容 胸部レントゲン・心電図・血液検査・尿検査
- ⑤ 費用 施設負担（検査内容により家族負担あり）

< 予防接種 >

1 インフルエンザ予防接種

- ① 実施期間 平成29年11月07日～12月26日
- ② 実施医師 嘱託医 星野正明先生
- ③ 実施場所 菜の花各ユニット
- ④ 実施人数 66名

ボランティア受入報告

1. 日常生活支援と趣味活動支援ボランティア

	開催日	内容	主催者	来所人数
1	4/12	尺八・舞踊・手品	FU～風	4名
2	4/17	フルート・ピアノ演奏	ティラミス	2名
3	4/26	大正琴	市川教室	3名
4	7/5	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
5	7/12	歌、演奏	よっしー	2名
6	7/19	合唱	乙女椿	9名
7	8/21	尺八・舞踊・手品	FU～風	4名
8	8/23	フォルクローレ演奏	グルーポカーニャ	1名
9	8/25	フルート・ピアノ演奏	ティラミス	2名
10	9/6	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
11	11/1	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
12	11/8	コーラス	楽歌声	10名
13	11/8	歌、演奏	よっしー	2名
14	12/9	歌、演奏	クワトロマージョ	4名
15	12/15	尺八・舞踊・手品	FU～風	4名
16	12/20	フォルクローレ演奏	グルーポカーニャ	1名
17	1/10	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
18	3/7	読み聞かせ	とっつこうくっつこう	8名
19	3/15	大正琴	市川教室	4名
20	3/26	日本舞踊	千郭会	8名

消防・防災 事業報告

1 消火・通報・避難・救護・総合訓練

平成 29 年 6 月 21 日 10:00~11:00

参加者 40 名(職員、入居者、利用者、消防設備業者)

訓練内容

通報訓練、消火訓練、避難訓練を連動して実施(日中体制時)。

避難終了後、職員・一部のご利用者で水消火器を使用して初期消火訓練を実施し、消防設備の取扱いについては、点検業者からの説明を受けました。

2 「社会福祉施設防災の日」総合防災訓練

平成 29 年 11 月 2 日 10:00~11:00

参加者 34 名(職員、入居者、利用者、消防設備業者)

訓練内容

通報訓練、消火訓練、避難訓練を連動して実施(夜間体制時)。

避難終了後、職員・一部のご利用者で水消火器を使用して初期消火訓練を実施し、消防設備の取扱いについては、点検業者からの説明を受けました。

消防用設備法定点検

平成 29 年 9 月 4 日…全設備異常なし

平成 30 年 3 月 23 日…全設備異常なし



寄付・寄贈 報告

年月日	寄贈者	品目・数量
平成 29 年 10 月 6 日	藤枝市茶手揉み保存会	手揉み茶
平成 30 年 2 月 1 日	(株)静岡第一テレビ(24 時間テレビ事務局)	福祉車両・1 台



平成29年度 苦情対応報告

平成30年3月31日

苦情解決管理責任者 川口節子

菜の花は今年で開設7年目を迎える事ができました。

お陰様で、皆様から頂戴しましたご意見やご協力が、職員の大きな糧となり、微力ではありますが、成長して参りました。

しかしまだまだ十分とは言えません。皆様にはご不便やご不快など、多くのご迷惑をお掛けしているのが現状でございます。

今後もお気付きの点、ご意見をお寄せ戴けますよう宜しくお願い申し上げます。

今年戴いた苦情は下記の12件でございます。

記

- 1 期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日
- 2 件数 12件
- 3 事業所内訳
 - ・デイサービス菜の花 4件
 - ・ショートステイ菜の花 6件 (デイ・ショート関連内容1件)
 - ・特別養護老人ホーム菜の花 2件

平成29年度 苦情・対応 一覧

受付年月日	事業区分	苦情内容	今後の対応方法
4月13日	デイ	男性職員が大きな声を出したので、耳が遠い利用者様が怒られたと勘違いしてびっくりした。午後の休憩でソファーに座っている時に、隣の席の人が私の肩に頭を乗せてうたた寝をしたので肩が凝ってしまった。	TPOを考え、声量も考える。仲の良いお二人だったので仲睦まじいと思っ てしまった。目配り気配りをしていく。
4月14日	特養	銀行の引き落としができなかったことについての電話があったが、結果的に施設の事務の手違いであった。金銭に関する連絡は書面でほしい。	事務所内での連絡ミスについて、今後は書面で申し送りしたり、ご家族へ のお願いも書面で連絡する。
5月11日	ショート	ケアマネから「長女様より連絡ノートに帰る時の服装の指示が書いてあったにも拘らず別の洋服で帰ってきた。次は気を付けてほしい」	連絡シート「家族からの連絡」の欄に記載がある場合は共有する。 ご家族からの要望は実行し、帰りの報告欄に返事（結果）を記載する（ご 希望のと通りの洋服に着替えて頂きました。など）
5月11日	デイ	デイから戻ったら、本人のバッグの中にお茶の入ったコップがストローを刺した状態のまま入っていた。こぼれても困るのでチェックしてほしい。	ショートから移動してきた職員がショートとデイの対応の違いを勘違い して慌てて返却したため、お茶が入ったまま返却になってしまった。急い でいても中身の確認などには十分気をつける。
7月6日	デイ ショート	コンビニの駐車場を横切って走っている車を何度か見かけた。人の家の庭を通っているようなものでみっともないと思う。施設の看板を背負っているので気を付けたほうがよいと思う。年配の男性運転手だった。	朝礼で私有地や商業地を横切らないよう運転手に周知徹底した。
7月11日	ショート	ご本人から「頻尿です。昨日の9時にトイレに行った。15分後にもう一度行きたくなったので、職員にお願いしたら職員が「さっき行ったでしょうもう少し我慢して下さい」と言われた「此处は良い所だからとケアマネに言われたがもう出たい」	入所後ご本人が菜の花に慣れて来られ安心感も感じて頂ける関係の中で 慣れない夜勤の職員が不用意な発言をしてしまった。難聴の方の対応には 誤解のないように理解できたかの確認をする。ご本人の気持ちに寄り添 う。
7月13日	特養	ご本人から「お風呂をやってくれたのは新人？まるで嫁さんがばあさんをお風呂に入れているみたいだった。」次にまたその人だったら「今はいい、断る」と仰られた。	入職後間もない職員が初めての入浴介助であったが、本質的に優しさが不 足していた。洗身の方法についても注意をしていく。

7月24日	ショート	長男様より電話で「今しがた帰ってきたけれど2点あります。 1. グレーのベストが入っていた見たら他の人の名前が書いてあった。 2. 市販の目薬本人が「もう無くなったと言っているが、あったら取って置いてほしい。」	1. 他者が部屋に入り手に持っていたベストを置いて行かれた可能性があるが、退所時の荷物チェックの確認不足。 2. 目薬は無くなってもそのまま容器をお返しする。その後目薬はご自宅にあった様子。
8月10日	ショート	ご本人から「トイレの後始末を手伝ってもらったけど、腕を強く握られて痛かった」と言われた。	何かと苦情を受ける職員で注意をしても効果ない。介護職として必要な職員教育を行い適時面接を計画していく。
9月3日	ショート	長女様から「早朝2時頃電話連絡があり眠れなくなった。夫は朝まで一睡もできなかった」	オンコール看護師の指示でご家族連絡をする事になっている。ご利用開始時に経過を見て大丈夫そうな場合は朝5時位にご家族連絡となっているが不安の場合は看護師の判断でその時に連絡をしているが、今回は結果的に症状も軽くご家族に余分な心配をかけてしまった。「ご家族様へお願い」を確認しご家族の意向に沿う。
10月3日	デイ	提供票を確認して送迎に訪問したところ、「家族が送ることになっている」とのお話したためそのまま施設に戻る。その後、家族が施設に電話をかけた際、デイとショート両方の利用者だったため最初ショートにつなぎ、その後デイにつないだが、電話口で待たせてしまったことに立腹。	特養、シュート、デイ、居宅あてのすべての電話が事務所に入るため、瞬時にご利用サービスを判断して取次するのが困難。事務職員は電話を受けた際に氏名だけでなく、どのサービスご利用なのかを確認する。送迎職員も送迎時に現場で変更や家族からの伝言などがあった場合は施設での待機職員もしくは事務職員に一報を入れる。
10月24日	ショート	利用者様より「荷物チェックの音がうるさい」	朝10時の苦情であった。ご本人は昨夜不眠であった様子。今後は一声掛けて確認・了解を得てからチェックをする。

内部研修報告 一覧

開催年月日	研修名	主催者	会場	参加者職種	参加者氏名	研修内容
平成 29 年 4 月 3 日	新人研修	川口 西井戸 中村 片岡	地域交流室	介護職 新入社員	小林健斗、大塚梢、 吉田香織里、長井千晶、 高岡有紀	組織の概要、業規則、理念、介護保険制度について
平成 29 年 4 月 4 日	新人研修	川口 西井戸 堀田 福與 大関	地域交流室	介護職 新入社員	小林健斗、大塚梢、 吉田香織里、長井千晶、 高岡有紀	業務体制、報告書。高齢者の特性、ケアプラン、ボディメカニクス、（事故予防）腰痛予防について
平成 29 年 4 月 5 日	新人研修	佐藤(葉) 堀田 奥津	地域交流室	介護職 新入社員	小林健斗、大塚梢、 吉田香織里、長井千晶、 高岡有紀	基本介護技術、フロアの業務の流れ
平成 29 年 4 月 21 日	新人研修	佐藤(葉) 堀田	地域交流室	介護職 新入社員	小林健斗、大塚梢、 吉田香織里、長井千晶、 高岡有紀	認知症ケアについて学ぶ
平成 29 年 5 月 16 日	読み聞かせボランティアを通じて思うこと	川口	地域交流室	介護職 事務職 用務	佐藤(葉)、松永 吉田、 小長谷、奥津、井戸端、 福与	ボランティアとして各施設を訪問した時に気づいたことや施設の対応、コミュニケーションの取り方など
平成 29 年 23~26 日	感染予防研修	森田	地域交流室	介護職	大澤、塚本、藤原、吉越、 加藤、松永、高岡、大関	手袋の使い方について、その意義や正しい使い方についての説明
平成 29 年 7 月 21 日	身体拘束について	川口	地域交流室	施設職員	大畑、大塚、佐藤、望月、 沢本、米谷、山下、加藤、 松永、小林、長井、福与、 大関、奥津	菜の花での身体拘束の考え方、リスク等についての説明

平成 29 年 9 月 17 日	事故予防福祉用具体験研修	(株)モリトー	地域交流室	介護職		各種福祉用具の適正な利用方法を学び事故予防に繋げる
平成 29 年 10 月 16 日	インフルエンザ対応	森田	地域交流室	介護職	福與、大関、奥津、吉越、藤平、松浦、小林、吉田	かぜとインフルエンザの違い、インフルエンザの特徴や対策について
平成 29 年 12 月 6 日	ノロウイルス感染予防策	森田	地域交流室	介護職 事務職 用務	小池、飯塚、吉田、大塚梢、福與、奥津、井戸端	ノロウイルス予防対策について
平成 29 年 12 月 20 日	在宅酸素療法	フクダ電子(株)	3F 隼ユニット	介護職 看護職	沢本、斎藤、廣瀬、藤平、鳥澤	正岡様のクリーン酸素の使用法を学ぶ。

外部研修報告 一覧

開催年月日	研修名	主催者	研修会場	参加者職種	参加者氏名	内容
4月13～14日	社会福祉法人 監事監査研修会	静岡県社会福祉協議会	グランシップ	監事 事務課長	杉山重人 西井戸靖	社会福祉法人における監査機能の充実及び関係役職員の資質・能力の向上
5月24日	静岡県老人福祉施設協議会中部支部総会	静岡県老人福祉施設協議会	静岡県総合社会福祉会館	施設長	川口節子	共同研修等活動費助成事業の説明及び平成28年度事業報告について
5月29日～ 8月11日	認知症介護実習者研修	静岡県介護福祉士会	静岡県総合社会福祉会館	介護職	米谷枝里子	認知症介護技術の向上を図り専門職員を養成することでサービスの向上を図る
6月5日	平成29年度福祉の就職フェア 事前研修会	静岡県社会福祉協議会	静岡労政会館	事務課長	西井戸靖	求職者側に事業所の魅力を伝え、採用につなげていくための研修
6月22日	静岡県個室ユニット型施設連絡会 総会及び研修会	静岡県個室ユニット型施設連絡会	静岡市東部勤労者福祉センター「清水テルサ」	施設長	川口節子	平成28年度事業報告及び講義
6月23日	チームケア研修「家族とつくる ケアチーム」	静岡県老施協	三島市商工会議所	施設長	川口節子	家族との連携及びトラブルの回避方法などを学ぶ
6月30日	高齢者の脱水、熱中症の予防と対策	藤枝市立総合病院	藤枝市立総合病院	看護師	藤平正子	高齢者の脱水と熱中症の予防と対策、熱中症時の受診判断と救命救急センター受診方法について
7月21日	平成29年度静岡県介護人材育成事業	株式会社東海道シグマ	株式会社東海道シグマ	事務課長	西井戸靖	介護職未経験・未資格者を派遣会社で募集し各施設で職場実習を行い説明と書類の手続きについての説明
7月28日	病院とケアマネジャーの連携	藤枝市立総合病院	藤枝市立総合病院	施設ケアマネ	福與麻貴	退院支援リンクナースとケアマネの合同研修会
8月3日	地域医療と介護・福祉をつなぐ会「いつまでも口から食べることを多職種で支援しよう」	藤枝市立総合病院	藤枝市立総合病院	施設ケアマネ、 栄養課、 介護職	福與麻貴 興津和予子 早川有希子	「藤枝市口腔ケア技術向上事業」活動報告、地域で行う食支援と姿勢の関係、地域の食支援を応援します。

開催年月日	研修名	主催者	研修会場	参加者職種	参加者氏名	内容
8月4日	第9回 静岡県高齢者福祉研究大会	静岡県老人福祉施設協議会	総合コンベンション施設 プラサヴェルデ	施設長 栄養士 介護職	川口節子 奥津和予子 早川有希子 野上初美 望月由紀子	他施設の実践や研究の発表及び情報の交流を通して介護福祉サービスの向上と人材の育成・資質向上を図る
8月19日	緩和ケアを取り入れた介護 最期のときを支える介護のポイント	静岡県立静岡がんセンター	グランシップ	介護職	岸端毅 佐藤葉子	最期の時を支える介護のポイント～痛いとき息が苦しいとき～、終末期の経口摂取と口腔ケア
8月22日	第1回 静岡県看護協会・看護連盟合同研修会	静岡県看護連盟	静岡商工会議所	施設長	川口節子	講演「看護を取り巻く社会情勢と看護政策の現状」及び意見交換
9月19日～1月26日(4日間)	身体拘束廃止推進員養成研修	静岡県介護福祉士会	静岡県総合社会福祉会館	介護職	米谷枝里子	推進員として、権利擁護や身体拘束廃止の意義を理解する
9月28日	介護力向上研修 研究発表 Again	静岡県老人福祉施設協議会	静岡県総合社会福祉会館	介護職	飛驒敏一	高齢者福祉研究大会において優秀賞に選ばれた6題について、取り組みの背景、効果等を発表し、介護力向上に役立てる
10月4日	介護職のためのフットケア講座	静岡県社会福祉人材センター	静岡県総合社会福祉会館	介護職	早川有希子	爪に関する正しい知識と手入れの方法を学び介護に役立てる
10月5日	認知症の人の理解と対応	静岡県介護福祉士会	静岡県総合社会福祉会館	介護職	堀田隆弘	認知症介護技術の向上を図り専門職員を養成することでサービスの向上を図る
10月12日	感染症予防研修会	一般社団法人静岡県社会就労センター協議会	静岡市呉服町5 風来館	施設長	川口節子	感染症の流行シーズンに備えて正しい知己を身につけることにより利用者を感染症から守り、予防する体制を整備する
10月12日	介護予防ケアマネ実務者研修	県健康福祉部	グランシップ	介護支援専門員	原崎尚子	包括ケアシステムの構築に向け求められる取組

開催年月日	研修名	主催者	研修会場	参加者 職種	参加者氏名	内容
11月10日	第2回地域医療連携研修 「冬場に多い高齢者の感染症」	藤枝市立総合病院	藤枝市立総合病院	介護職 看護師	大澤紀世子 杉本律士 藤平正子	冬場に多い高齢者の感染症の基礎知識 及び感染予防と対策について
12月3日	災害看護地区研修・地域防災訓練	静岡県看護協会	稲葉小学校	看護師	藤平正子	地域の防災訓練に参加することで防災 対策を学ぶ
12月4日	介護保険事業者及び障害福祉 サービス事業者等の感染症予 防対策研修会	藤枝市立総合病院	藤枝市立総合病院	特養相談員	村松多加代	感染を広げない対策について。手袋、 マスク、エプロンの正しいつけ方、外 し方
平成30年 1月16日	第2回 医療・福祉施設等看護 代表者会議	静岡県看護協会	静岡県看護協会	施設長	川口節子	日本看護協会の動向、重点事業の進捗 状況・課題等報告
1月17日	障害者差別解消啓発セミナー	静岡県社会福祉士 会	静岡音楽館 AOI 講堂	介護職	紅林俊彦	講義「障害者差別解消法のこれから」 及び県内の動向と取り組み紹介
2月2日	静岡県看護管理者会 第2回 研修会	静岡県看護管理者 会	静岡県総合社会福祉 会館	施設長	川口節子	講義「平成30年医療・介護診療報酬同 時改定を乗り切るために」
2月2日～3日	平成29年度 中部支部管理者 向け研修	静岡県老人福祉施 設協議会	三保園ホテル	施設長	川口節子	講演「合掌園の細葉・育成～人づくり 経営品質向上を目指して」
2月9日	認知症サポート上級者育成指 導者養成研修	全国キャラバン・ メイト連絡協議会	レイアップ御幸町ビ ル6階	介護職	堀田隆弘 野上初美 越前清子	「認知症サポーター養成講座」の講師 となる「キャラバン・メイト」の技量 向上を図る
2月24日	平成29年度 静岡県看護協会 看護師職能Ⅰ・Ⅱ合同交流会	静岡県看護協会	静岡県看護協会	施設長	川口節子	講義「患者・家族のゆるる心に気づき、 それを支える言葉」その後、グループ ワーク
2月26日	身体拘束廃止フォーラム	静岡県介護福祉士 会	静岡県総合社会福祉 会館	介護職	山内	講義「高齢者の権利擁護と身体拘束廃 止」及び、実践報告
3月10日	静岡県看護協会志太榛原地区 支部集会	静岡県看護協会	静岡県看護協会	施設長	川口節子	講義「あなたが認知症になったら、ど うしてもらいたいですか」

開催年月日	研修名	主催者	研修会場	参加者 職種	参加者氏名	内容
3月12日	平成29年度 志太榛原地区特養施設長連絡会	志太榛原地区特養施設長会	特別養護老人ホーム うたしあ	施設長	川口節子	講演「介護職員のメンタルヘルスと育成について」「社会保障制度について」
3月14日	中部支部職員研修 「アンガーマネジメントに学ぶ」	静岡県老人福祉施設協議会	静岡県総合社会福祉会館	介護職	杉本侑也	自分の怒りのパターンを知り、感情に振り回されないようなトレーニング方法を学ぶ
3月20日	静岡県老人福祉施設協議会3月定例会議	静岡県老人福祉施設協議会	静岡県総合社会福祉会館	施設長	川口節子	役員の選任等の総会后、研修会「介護報酬の改定について～ポイントと対応・今後の方向」
3月22日	特別養護老人ホームネットワークづくりの施設見学会	静岡県看護協会	特別養護老人ホーム ぬまづホーム、いづテラス	施設長	川口節子	先駆的な取り組みをしている施設の見学研修会及び交流会
3月29日	第2回 静岡県看護協会・看護連盟合同研修会	静岡県看護協会	静岡県看護協会	施設長	川口節子	平成30年度 診療報酬・介護報酬同時改定の動向と看護

事業報告の附属明細書

該当事項ありません

社会福祉法人聖啓会

